

## IV 新規開設した施設

### 令和6年度以降に新規開設した施設

※仙台市、さいたま市、相模原市、新潟市、静岡市、浜松市、堺市、北九州市は該当なし

#### 札幌市

事業名	中央区複合庁舎整備	事業年度（期間）	令和3年度～令和6年度
施設名	中央区複合庁舎	開設年月日	令和7年2月25日
敷地面積	3,962.37 m <sup>2</sup>	建築面積	3,021.62 m <sup>2</sup>
		延床面積	20,215.91 m <sup>2</sup>
規模・構造	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造 地上6階、地下2階		
総事業費(千円)	14,779,455		(令和3年度～令和6年度)
	うち、建設費		10,951,669
財源内訳(千円)	特定財源	国県支出金	22,252
		地方債	8,779,000
		その他	103,490
	一般財源	5,874,703	
設置目的	<p>○旧中央区役所における耐震性能の強化、老朽化した施設・設備の更新、狭隘化による利便性の低下の解消、駐車場不足の解消のための建て替え</p> <p>○市民利便性の向上や業務効率の改善のため、区役所と密接に関係する施設である保健センター、区民センターを新庁舎に複合化</p>		
施設概要	<p>以下の4つのコンセプトで整備を行った。</p> <p>①誰にも優しい庁舎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来庁者の多い窓口課を3階に集約。</li> <li>・複数窓口での手続き待ち時間の削減のため、各窓口の呼び出し順を管理するシステムを導入。</li> </ul> <p>②愛着の持てる庁舎・景観に配慮した庁舎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外観上特徴となる場所や手で触れられる場所を中心に道産材を使用。</li> <li>・札幌市時計台に代表される下見板張りをモチーフとした外観を採用。</li> </ul> <p>③災害に強い庁舎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・免震構造により高い耐震性能を有する庁舎。</li> <li>・市災害対策本部（市役所本庁舎）が使用不可能になった場合のバックアップ機能を整備。</li> </ul> <p>④環境に配慮した庁舎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下水熱をロードヒーティング等に活用。</li> <li>・コジェネレーションシステムにより発電時の熱を給湯や暖房に利用。</li> </ul>		

## 千葉市

事業名	千葉公園「賑わいエリア」 「ドーム前広場」整備・運営 事業	事業年度（期間）	令和6年度～令和26年度
施設名	千葉公園「芝庭」	開設年月日	令和6年4月26日
敷地面積	29,000 m <sup>2</sup>	建築面積	1,868.42 m <sup>2</sup>
		延床面積	1,730.00 m <sup>2</sup>
規模・構造	地上1階・鉄骨造		
総事業費(千円)	1,270,300		
	うち、建設費	1,270,300	
財源内訳(千円)	特定財源	国県支出金	337,150
		地方債	337,000
		その他	596,000
	一般財源	150	
設置目的	千葉公園のさらなる魅力向上や、千葉駅北エリアの活性化に寄与するため。		
施設概要	芝生広場（8,000 m <sup>2</sup> ）をメインとしたオープンスペース、飲食店、パンプトラック、屋根付き広場2カ所等		

## 川崎市

事業名	新川崎地区学校新設事業	事業年度（期間）	令和6年度
施設名	川崎市立新小倉小学校	開設年月日	完成 令和7年1月 供用開始 同年4月
敷地面積	16,751,79 m <sup>2</sup>	建築面積	6,459,53 m <sup>2</sup>
		延床面積	17,660,82 m <sup>2</sup>
規模・構造	校舎・体育館棟 鉄骨造地上4階建 (17,541,201m <sup>2</sup> ) 屋外体育倉庫 木造平屋建 (97,20m <sup>2</sup> ) 駐輪場 鉄骨造平屋建 (22.42m <sup>2</sup> )		
総事業費(千円)	18,575,341 (平成26年度～令和6年度) ※設計費、土地購入費、公有財産取得費		
	うち、公有財産取得費	9,924,646	
財源内訳(千円)	特定財源	国県支出金	1,433,685
		地方債	15,317,000
		その他	-
	一般財源	1,824,656	
設置目的	<p>新川崎・鹿島田駅周辺地区は、都市基盤整備が進められており、こうした取組の進展に伴い、大規模共同住宅が複数整備されたことによる人口流入が生じ、今後も大規模な共同住宅整備の計画があるなど、人口流入が継続すると見込まれている。</p> <p>このような状況から、周辺小学校の児童数の増加も見込まれており、特に新川崎地区においては、「新小倉」への共同住宅整備事業が進められていく中で、小学校を新設し、周辺地域の良好な環境整備を確保するため。</p>		
施設概要	<p>1階 グラウンド、体育館、給食室、会議室、校長室、職員室、特別支援教室、わくわくプラザ、地域活動室、みらいホール（多目的ホール）</p> <p>2階 普通教室（低学年）、多目的室、生活科室、メディアセンター、アクティブルーム</p> <p>3階 普通教室（中学年）、多目的室、図工室（テラス付）、理科室（テラス付）</p> <p>4階 普通教室（高学年）、多目的室、グローバルルーム、音楽室、放送室、家庭科室</p>		

## 横浜市

事業名	文化施設整備事業	事業年度（期間）	平成30年度～令和6年度
施設名	横浜市都筑区民文化センター	開設年月日	令和7年3月16日
敷地面積	敷地は民間事業者と共有	建築面積	— m <sup>2</sup>
		延床面積	4030.3 m <sup>2</sup> （専有部分）
規模・構造	鉄筋コンクリート・鉄骨鉄筋コンクリート7階建（地下2階、地上5階）		
総事業費（千円）	5,299,318		（平成30年度～令和6年度） ※令和6年度は予算額
	うち、建設費（民間事業者からの取得費用）		4,517,559
財源内訳（千円）	特定財源	国県支出金	0
		地方債	4,224,000
		その他	0
	一般財源	1,075,318	
設置目的	地域に根差した個性ある文化の創造に寄与するため、文化活動の場や機会の提供を行うとともに、区全域での文化活動に関する支援機能や、ネットワーク形成を牽引する機能を担うことを目的とした地域文化の拠点		
施設概要	<p>事業者により市有地を売却し、購入した事業者が区民文化センターを含む施設を整備、完成した区民文化センターを横浜市が取得する土地活用事業の中で整備。</p> <p>民間事業者の建物と区民文化センターは一棟となっており、敷地及び建物は民間事業者と区分所有している。</p> <p>区民文化センターの仕様は、地元文化団体代表者や有識者からなる「横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会」の意見を踏まえ決定。1階にギャラリー、リハーサル室、練習室（2部屋）、会議室（2部屋・一体利用可）、2階にホール（客席数310席）を設置している。</p> <p>民間事業者建物部分と区民文化センターの間には全天候型広場（共用部）があり、民間事業者と連携したイベントの実施や、にぎわい創出を目的とした活用を想定している。</p>		

## 名古屋市

事業名	なごやか中学校（夜間中学） の新設	事業年度（期間）	令和5年度～令和6年度
施設名	なごやか中学校	開設年月日	令和7年4月1日
敷地面積	— m <sup>2</sup>	建築面積	— m <sup>2</sup>
		延床面積	— m <sup>2</sup>
規模・構造	笹島小・中学校敷地内（体育館棟1階）に設置 （笹島小学校中学校：地下1階、地上6階 鉄筋コンクリート造）		
総事業費（千円）	128,932		（令和5年度～令和6年度）
	うち、建設費		76,149
財源内訳（千円）	特定財源	国県支出金	13,122
		地方債	43,000
		その他	0
	一般財源	72,810	
設置目的	義務教育を修了しないまま学齢期を経過した者や、不登校など様々な事情により十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した者、また、本国や日本において十分に義務教育を受けられなかった外国籍の者に、義務教育を受ける機会を実質的に保障する。		
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ なごやか中学校面積：272.00m<sup>2</sup></li> <li>・ 職員室、相談室、普通教室（3室）</li> <li>・ 専用の普通教室を1学年1教室（3室）設置</li> <li>・ 専用の出入口（登下校門）を設置</li> <li>・ 各種主要公共交通機関（名古屋駅）から徒歩10分</li> </ul>		

## 京都市

事業名	宝が池公園運動施設アーバンスポーツパーク（仮称）整備工事	事業年度（期間）	令和4年度～令和6年度
施設名	宝が池公園運動施設アーバンスポーツパーク	開設年月日	令和7年4月20日
敷地面積	メインパーク1,600㎡ ミニパーク900㎡	建築面積	－ ㎡
		延床面積	－ ㎡
規模・構造	コンクリート造		
総事業費(千円)	326,470 (令和4年度～令和6年度)		
	うち、建設費	243,600	
財源内訳(千円)	特定財源	国県支出金	0
		地方債	0
		その他	326,470
	一般財源	0	
設置目的	東京2020オリンピック以降のアーバンスポーツ愛好者急増により市内の施設不足が課題となっていたことから、アーバンスポーツ普及のため整備を行った。		
施設概要	宝が池公園運動施設アーバンスポーツパークは、五山の送り火「妙」の字の麓に位置し、京都ならではの空間・施設に、メインパークとミニパークの2つのパークを兼ね備えており、初心者から上級者まで幅広い利用者が楽しめるアーバンスポーツパークである。メインパークには、太鼓橋や鴨川をイメージした京都ならではのセクションのほか大型バーチカルを配置。また、ミニパークでは、3 x 3 バスケコートやスケートボード初心者エリア等を整備することにより、アーバンスポーツが利用できる。		

## 大阪市

事業名	「新・大阪市総合教育センター（仮称）」建設事業	事業年度（期間）	令和3年度～令和5年度
施設名	大阪市総合教育センター	開設年月日	令和6年4月1日
敷地面積	704.45 m <sup>2</sup>	建築面積	676.64 m <sup>2</sup>
		延床面積	786.07 m <sup>2</sup>
規模・構造	鉄骨造陸屋根10階建		
総事業費(千円)	933,661		(令和4年度～令和5年度) ※大阪市負担額のみ
	うち、建設費		598,426
財源内訳(千円)	特定財源	国県支出金	0
		地方債	0
		その他	0
	一般財源		933,661
設置目的	もと教育センターは教員の研修や学校の行う研究に対する指導助言が業務の中心であったが、合築による移転により大阪市が直面する課題に対し、教育機関、企業、教育施策に直結する行政等が一堂に会することができ即効性のある効果的なアプローチを可能とすることを目的とする。		
施設概要	1階～5階 大阪教育大学エリア 6階～10階 大阪市総合教育センター		

## 神戸市

事業名	神戸空港の国際化	事業年度（期間）	令和6年度～令和7年度
施設名	神戸空港第2ターミナル	開設年月日	令和7年4月18日
敷地面積	約31,000 m <sup>2</sup>	建築面積	14,436.30 m <sup>2</sup>
		延床面積	18,434.84 m <sup>2</sup>
規模・構造	鉄骨造2階建て		
総事業費(千円)	15,000,000 (令和6年度～令和7年度)		
	うち、建設費		15,000,000
財源内訳(千円)	特定財源	国県支出金	0
		地方債	0
		その他	15,000,000
	一般財源	0	
設置目的	今後、拡大する国内線や国際チャーター便需要に対応し、旅客や市民の皆さんに安全かつ快適に神戸空港をご利用いただくため。		
施設概要	旅客施設をすべて1階に配置した施設構成。旅客動線は上下移動を無くし、搭乗にかかる窓口をわかりやすい配置とすることで、初めて使う旅客も迷わず安心して利用できる施設となっている。		

## 岡山市

事業名	岡山市消防教育訓練センター 水難救助訓練施設		事業年度（期間）	令和3年度～令和6年度
施設名	岡山市消防教育訓練センター 水難救助訓練施設		開設年月日	令和7年4月1日
敷地面積	7,861,78 m <sup>2</sup> (南消防署含む)		建築面積	324.30 m <sup>2</sup>
			延床面積	772.16 m <sup>2</sup>
規模・構造	鉄筋コンクリート（RC）造3階建て			
総事業費（千円）	1,054,314		（令和3年度～令和6年度）	
	うち、建設費		962,665	
財源内訳（千円）	特定財源	国県支出金	0	
		地方債	949,500	
		その他	0	
	一般財源		104,814	
設置目的	<p>消防職員が、災害対応力の強化を図るため、安定した訓練環境を確保し、また市民が風水害の模擬体験を通じて、防災意識の向上と行動変容につなげていくことを目的としています。</p> <p>風水害体験エリアでは、大雨や水圧のかかったドアの重さを体験したり、浸水時の歩行のしにくさを体験することができます。これらの体験を通じて、風水害の怖さや浸水時の避難の難しさを学ぶことにより、御自身はもとより周りの方も巻き込んだ早期の避難行動につなげていくことができます。</p>			
施設概要	<p>消防職員が水難救助に特化した訓練を実施するプールエリアと、市民が風水害の模擬体験を行える風水害体験エリアを併設しています。</p> <p>(1) 施設内訳</p> <p>【プールエリア】・多目的プール（長さ25m×幅8m×深さ3m） ・潜水プール（直径6m×深さ10m）</p> <p>【風水害体験エリア】・啓発映像・展示ホール ・水圧自動車ドア体験 ・水圧ドア体験 ・流水歩行体験 ・風雨体験</p> <p>(2) 所在地 岡山市南区浦安南町495-88 岡山市消防教育訓練センター 水難救助訓練施設</p> <p>(3) 電話番号 086-262-4917</p> <p>(4) 開館時間 8時30分～17時15分 休館日：水曜日、年末年始</p> <p>(5) ホームページ等 WEB予約</p> <p>(6) 管理運営費 約720万円（年間）</p>			

## 広島市

事業名	広島市似島歓迎交流センター 再整備	事業年度（期間）	令和2年度～令和5年度
施設名	広島市似島歓迎交流センター （命名権呼称：ユーハイム似 島歓迎交流センター）	開設年月日	令和6年4月1日
敷地面積	69,725 m <sup>2</sup>	建築面積	事業関係部分 3,044.32 m <sup>2</sup> 全体(既存含) 6,181.35 m <sup>2</sup>
		延床面積	事業関係部分 4,021.31 m <sup>2</sup> 全体(既存含) 8,746.22 m <sup>2</sup>
規模・構造	地上2階 鉄筋コンクリート造、地上2階 鉄骨造、地上2階 木造等		
総事業費(千円)	1,935,000 (令和2年度～令和5年度)		
	うち、建設費	1,716,000	
財源内訳(千円)	特定財源	国県支出金	0
		地方債	1,935,000
		その他	0
	一般財源	0	
設置目的	<p>似島の住民が、似島への来訪者を歓迎し、その恵まれた自然環境や貴重な歴史的文化的所産を生かした市民の交流、体験等の活動が行える場を提供する拠点を設けることにより、市民の交流等を促進し、地域の活性化を図るとともに、観光の振興等に資するため、広島市似島歓迎交流センターを設置。</p>		
施設概要	<p>施設の内容（既存施設含）</p> <p>①宿泊棟：3棟 宿泊定員204人(68人×3棟)</p> <p>②大浴場棟：1棟 1F浴場(52人×2) 2F大研修室(156人)</p> <p>③体育棟（管理棟）：1棟 体育館・事務室・展示スペース</p> <p>④食堂棟：1棟 1F食堂(216人) 2F研修室(4室)</p> <p>⑤コテージ：5棟10室 宿泊定員140人(14人×10室)</p> <p>⑥海水プール：流水プール・幼児プール・ウォータースライダー（ループ式）・スライダー用着水プール・更衣室・事務室（最大利用可能人数：485人）</p> <p>⑦炊飯テラス：1棟 69m×11m（かまど4基×6か所・バウムクーヘン場）</p> <p>⑧その他、集いの広場、グラウンド（人工芝）・展望広場（2か所）、テニスコート（ハードコート2面）・アスレチック場・トイレなどが整備され一体的に利用することができます。</p>		

## 福岡市

事業名	福岡市拠点文化施設整備及び須崎公園再整備事業		事業年度（期間）	令和2年度～令和21年度
施設名	福岡市民ホール		開設年月日	令和7年3月28日
敷地面積	10,669.63 m <sup>2</sup>		建築面積	7,773.73 m <sup>2</sup>
			延床面積	20,303.66 m <sup>2</sup>
規模・構造	地上5階、地下1階 RC造、SRC造、S造			
総事業費(千円)	28,051,024		（令和4年度～令和21年度）	
	うち、建設費		23,717,088	
財源内訳(千円)	特定財源	国県支出金	101,500	
		地方債	515,000	
		その他	0	
	一般財源		23,100,588	
設置目的	<p>多彩な舞台芸術の公演及び多様な市民の文化芸術活動等の場を提供することにより、本市における文化芸術の振興及び文化芸術を通じた交流の促進を図り、もって心豊かな市民生活の実現と都市の魅力向上に寄与することを目的として設置。</p>			
施設概要	<p>昭和38年10月開館の福岡市民会館を継承する施設として、令和7年3月に開館（福岡市民会館は同月閉館）。</p> <p>施設は、大ホール（約2000席）、中ホール（約800席）、小ホール（仮設約150席）とリハーサル室と練習室3室を備えている。</p>			

## 熊本市

事業名	熊本市立金峰山少年自然の家 新施設整備運営事業	事業年度（期間）	令和4年度～令和22年度
施設名	熊本市立金峰山自然の家	開設年月日	令和7年4月1日
敷地面積	8,906 m <sup>2</sup>	建築面積	2,602 m <sup>2</sup>
		延床面積	2,565 m <sup>2</sup>
規模・構造	木造（W）・一部は鉄筋コンクリート（RC）と鉄骨（S）		
総事業費（千円）	2,436,000（令和4年度～令和22年度）		
	うち、建設費	1,116,597	
財源内訳（千円）	特定財源	国県支出金	0
		地方債	0
		その他	0
	一般財源	2,436,000	
設置目的	<p>恵まれた自然や環境に配慮した施設を活かした環境教育等、質の高い教育や学びの場を提供し、利用者ニーズに合致した公共サービスの提供や効果的かつ効率的な業務を提供する。</p>		
施設概要	<p>民間事業者のノウハウを最大限に活用して、利用者ニーズに合致した公共サービスの提供や効果的かつ効率的な業務を遂行することとしている。</p> <p>また、事業方式は、PFI法に基づき、事業者と熊本市が事業契約を締結し、事業者自らが本施設を設計・建設（一部改修）し、所有権を市に移転した後、維持管理及び運営を行うBTO（Build Transfer Operate）方式を採用。</p> <p>新施設の名称を「熊本市立金峰山自然の家」とし、少年以外にも広く市民等の自然体験活動拠点施設として運営を行う。</p>		